

法善寺だより

第1号

発行所

北条市北条5-8-1
法善寺
TEL(02)0812

孟蘭盆御書 (日蓮大聖人)

目連が色身は父母の遺体なり。目連が色身
 仏になりしかば、父母の身も又仏になりぬ。
 目連尊者が法華経を信じまひらせし大善は
 我身仏になるのみならず父母仏になり給ふ。
 上と代下七代上無量生の父母亭存外に仏
 とはり給ふ。



旧盆を迎えて

(お施餓鬼とは)

お盆月が申しますと昔山では
 毎月二十六日にお施餓鬼法要が
 行なわれます。何気なく昔からの

風習として行なわれているよう
 ですが、「お施餓鬼」には大切な意
 義がこめられています。
 この「孟蘭盆御書」にあります
 が、このお施餓鬼は目連尊者が母
 を思い、母を救い、供養し報恩の
 中かしい心から起ったのでありま
 す。

目連さんはお釈迦様の十大弟子
 のお一人で、神通力第一と謳われ
 たお方ですが、ある日かと思われ
 なさ母背徳女がどうしていられる
 かと悪い、母をいづこと卒ねます
 と、あわれみ悲道に墮ちて苦しん
 でいました。その姿を見て、「お
 母さん、人にもどこしをするん
 ですよ、世の人のためにつくし
 るといよと、ご冥前に申し上げた
 てしように、食むとることが出
 来ず日夜責の言で、針のようによ
 と苦しむ母を見てどうにかして救
 おうと孝行な願いの目連さんは
 飲魔道に行つてご飯をさしあげま
 した所、たちまち火になつてしま
 いました。慌てた目連さんは、水
 をもって消そうとしましたが、い
 よいよ火は盛んになり、母を苦し
 めました。

「目連よ、お前の母を思う心は尊
 い。だが母は生前欲深な心で、死
 しや世の中に養仕する事を志せ
 かった。自から悔いた徳で今の苦
 の苦を受けて居るのだ。だから死
 しや、病める人を怒めたり、仏に
 供養したりするのがよい。その功
 徳によって母は救われるであらう
 じと救えられました。」

目連さんはよく、よく母のために
 施食を飲魔に供養して、飲魔道に
 墮ちている母を救ったのです。
 人間は凡夫です。ひとの持つ花
 は赤く見えるものです。雷鳴る人
 を見れば自分に比べて不濟の心が
 生じるものです。彼にはやりがな
 いでしょう。不平不満で厚謝の言
 い人間は「出しおしめ」や「むさ
 ぼり」の心が生じやすいのです。
 私達が目連の生活をかえりみる
 時、この「目連さんの母の心」
 「むさぼり」がよくあるのではな
 いでしょうか。

お盆月はこの飲魔道の心をのが
 れるため「南無妙法蓮華経」と唱
 え信心に祈み「祈施り心」「感謝
 報恩の心」を呼びおこす時ではな
 いのでしょうか。そう言う気持を
 持つことが「先祖の方々への大き
 な功德にもなるわけです。」

蓮聖人のお言葉

わごわいは口より
出でて身をやぶる
さいわいは心より
出でて我をかざる

（重演殿文房御返書）

人間が他の動物と違がいの口より出でて意を言はしめかね合えることは、大要に煩雜いことであるが便利すく公署ならぬ、口舌をとおすこともよくある。「しまだ言ひ盡す」と思つた許ばもう既に後のまつり、相手を大いに傷つけたりする。

とかく口は言ひ盡すたり、カッとしてみたりして、思いがけぬほどを日蓮聖人は身をやぶるものであるから言ひつけたさいと教えておられる。反面、まことしやかに利口さうな口を使わずとも、真心をもちて人に接する時、相手も傷つかず、自分自身も一段と大きくかゞられることになるというのである。

真心の行動には、不慮の災難にあつた見ず知らずの人に對し、心よりかわいそうだとはいふ念にかられ、何かしらの心づかいを施す。そんな真心の、仏教をいふところの慈悲心のあらわれである。ニコニコと笑みを浮かべ、言葉こそ少なからずも相手の立場にたつてものを考えてくれる。そんな人に会つた時、何とぞ人の大さく美しく見えてくることか、また、何とぞその周囲のなごやかなことか、人間の徳も善でもなく悪でもない。その人の行ないによつて善人とも悪人ともなるのだ。御返書まは示しておられるが、日蓮上人も重演殿の文房に、地獄の心も仏の心も五尺の身の内にあるとし、願わくば志望経を信する人は、少なくとも前をすて後の仏の心にまきよ、と説かれていた。



信仰相談

問い、お墓をはり守つていたたくお寺を覆ぬ寺と思ひますが、その關係について具体的に……
お答え、お墓や位牌を守つていたたしてはいるから、覆ぬ寺というのではありませぬ。お先祖から自分に伝へるまでそのお寺の本尊に信仰を捧げ遺したから、先後しそのお寺さまのむくに赴こうと、お墓を築きお位牌を納めるのです。こうして先祖を信託し、自分みずから志望経の修行をするお寺の御返や僧侶の指導と維持する人びとと、遺教とつ呼ぶのです。ですから何よりも自分自身の信仰が大切で、それによつてこそお先祖の菩提も厚くとがらうことができますといえましょう。ですから、お寺の方をどうした時か、何日忌かの法要の時には、お寺へお参りしないのは、本旨の信仰とは申とよびん。茶日頃時にお盆やお施盆忌、法要会にお盆などお寺の行事の日には覆ぬ寺に参詣し、信心を培ふことが必要です。多くの方々と法要に列席した上で法要を聞き、御本尊に参つて先祖の供養をするのが覆ぬ寺に對する覆ぬの勤めなのです。

八月十月の行事

八月廿六日午後三時より
流灯施餓鬼大法要

十一月廿三日午後七時より
宗祖竜口法難会

（毎月の信行会）午後七時より

一日、その月盛蓮花願祭
二日、宗祖龍口法難会
二十三日、清正公縁起燈籠行

あとがき

残暑お見舞申し上ります。
今年のお盆月より、かねてからの余願でありました法吾寺だよりを発行することにしました。

お寺という法吾や宗式だけと遠慮されますが、実は皆様方に御返書さまで日蓮聖人の教えを知つていただき、それを実践の中になつかすお子供いが一益大幸な仕事の一つです。そこで、これから原則として年一回、この寺報を皆様方のお手元にお配りする事になりまして、まだまだ善きお返書までが充分おからだに氣をつけられお仕事に励まれますことを心より祈り申し上ります。合掌